

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学研究科の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化 (2011年度入試実施までに)	B	B			
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度 (一般、社会人、外国人留学生) で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示 (2012年度入試実施までに)	C	C			
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成 (2011年度入試より)	C	C			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	<p>5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→● 方針を設定している ○ 方針は設定していない</p> <p>(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→● 明示している ○ 明示していない</p> <p>(受け入れ方針)                  神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を設けている。本研究科設置以来の目的として、キリスト教界における宣教活動を担う伝道者（牧師・聖書科教師など）の育成を掲げてきた。その伝統を守りながらも、2008年度より履修コース制を導入して、キリスト教神学、キリスト教思想・文化の分野で、より広い関心から高度な研究が行えるようになっている。</p> <p>博士課程前期課程                  キリスト教神学・伝道者コースにおいては、所属教会から推薦を得られる者に受験資格を認めることで、神学的な研鑽を深め、多様な宣教の現場で活動する高い志を持つ者を受け入れている。キリスト教思想・文化コースにおいては、受洗の有無を問わず、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などの学際的領域に興味を持つ者を幅広く受け入れている。</p> <p>博士課程後期課程                  神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において優れた特色ある研究を行える者を受け入れている。</p> <p>(説明)                  入試検討委員会（研究科）および研究科委員会での検討を経て、上記方針を2012年度募集要項に掲載している。ただし、特にキリスト教神学・伝道者コースにおいて学部教育との接続を重視しており、学部のディプロマ・ポリシーの策定・明示がいったん完了したことから、改めて検証を開始する予定である。</p>																																
★小項目5.0.2	<p>5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。</p> <p>(説明)                  現行、前期課程においては、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試を用意し（キリスト教神学・伝道者コースにおいては、いわゆる洗礼条項を設け、所属教会からの推薦書の提出を義務付けている）、後期課程においては、一般入試、外国人留学生入試を用意している。それぞれの入試制度において上記アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）の各要素がどのように実現されているか、整理・明文化が必要である。</p> <p>2008年度に履修コース制を導入した後、例年キリスト教思想・文化コースへ学生を受け入れている（2008年度・1名、2009年度・3名、2010年度・3名、2011年度・1名。2008年度および2009年度に受け入れた2名は、2011年度および2011年度に後期課程へも進学）。</p> <p>また後期課程については、いわゆる課程博士の取得につながる者を求める入学者像のひとつの柱としているが、その方針に適切な学生を受け入れ、近年は順調に輩出しているといえる（課程博士輩出数：2007 -2010年度・各1名。2010年度の1名は在籍期間3年での学位取得）。</p>																																
小項目5.0.3	<p>5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>(説明)                  2009年度から2011年度の収容定員に対する在籍学生数比率は以下のとおりであり、適切に推移しているといえる。</p> <table border="1" data-bbox="336 1558 1008 1840"> <thead> <tr> <th>前期課程</th> <th>定員数</th> <th>在籍者数</th> <th>在籍学生比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009年度</td> <td>20名</td> <td>21名</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>20名</td> <td>21名</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>2011年度</td> <td>20名</td> <td>26名</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <th>後期課程</th> <th>定員数</th> <th>在籍者数</th> <th>在籍学生比率</th> </tr> <tr> <td>2009年度</td> <td>6名</td> <td>7名</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>6名</td> <td>7名</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>2011年度</td> <td>6名</td> <td>5名</td> <td>0.83</td> </tr> </tbody> </table>	前期課程	定員数	在籍者数	在籍学生比率	2009年度	20名	21名	1.05	2010年度	20名	21名	1.05	2011年度	20名	26名	1.30	後期課程	定員数	在籍者数	在籍学生比率	2009年度	6名	7名	1.17	2010年度	6名	7名	1.17	2011年度	6名	5名	0.83
前期課程	定員数	在籍者数	在籍学生比率																														
2009年度	20名	21名	1.05																														
2010年度	20名	21名	1.05																														
2011年度	20名	26名	1.30																														
後期課程	定員数	在籍者数	在籍学生比率																														
2009年度	6名	7名	1.17																														
2010年度	6名	7名	1.17																														
2011年度	6名	5名	0.83																														
小項目5.0.4	<p>5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→● 検証している ○ 検証していない</p> <p>(説明)                  定期的に検証する仕組みとして、入試検討委員会（研究科）における報告書の作成を検討しているが、いまだ具体的な内容については決まっていない。</p>																																
その他																																	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学研究科】		前期/後期課程	単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	10	10	10	10	10	
		後期課程		2	2	2	2	2	
指標2	志願者総数	前期課程	人	14	19	15	19	23	
		後期課程		3	2	2	2	1	
指標3	合格者数	前期課程	人	9	9	9	11	12	
		後期課程		2	2	2	2	1	
指標4	入学者数	前期課程	人	8	9	9	11	11	
		後期課程		2	2	2	2	1	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.4	1.9	1.5	1.9	2.3	志願者÷入学定員
		後期課程		1.5	1.0	1.0	1.0	0.5	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	1.30	1.24	1.08	0.98	0.96	入学者数÷入学定員
		後期課程		1.00	1.10	1.00	1.10	0.90	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	75.0%	100.0%	66.7%	72.7%	63.6%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	20	20	20	20	20	
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標9	在籍学生数	前期課程	人	29	22	21	21	26	
		後期課程		6	7	7	7	5	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	145.0%	110.0%	105.0%	105.0%	130.0%	
		後期課程		100.0%	116.7%	116.7%	116.7%	83.3%	

(その他の指標データ)

入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】

地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合

科目等履修者の入学者数

聴講生の入学者数

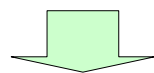
☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



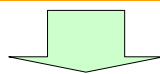
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	それぞれの入試制度において明文化されたアドミッション・ポリシーの各要素がどのように実現されているか、整理・明文化が必要である。
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集の方法を検証する仕組みについて、入試検討委員会（研究科）における報告書の作成を検討しているが、いまだ具体的な内容については決まっていない。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	入試検討委員会（研究科）において整理・明文化作業を開始する。
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	入試検討委員会（研究科）において検討を開始する。
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

- 収容定員に対する在籍学生数比率は関学の大学院の中では、高い比率を維持しています。
- ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定を受けたアドミッション・ポリシーの明確化が期待されます。

## 【学内委員】

- 掲げられた学生受け入れ方針は、アドミッションポリシーとしては、やや不明確です。どのような資質を持つ学生を求めるのかを、より具体的に明示することが求められます。
- 5.0.1では2010年度の報告に「学部のD P策定・明示を待って検証を行う予定」としていますが、今回の報告でD Pの策定・明示が完了したにも関わらず「検証を行う予定」とされています。早期に検証することが期待されます。
- 5.0.2では2010年度の報告で「A Pの要素がどのように実現されているか2012年度入試実施(2010年度中)までに整理・明文化していく予定」としながら、今回の報告でも整理・明文化はまだできていないように読み取れます。改善すべき事項にあがっていますが、すでに2012年度の入試が始まっているので早急に取り組まれることが期待されます。
- 定員は、前期課程の「収容定員に対する在籍学生数比率」が今年度130%とやや高くなったものの、概ね適切に管理されています。
- 5.0.4で「検証している」にチェックされていますが、説明では検証が行われていないようですし、改善すべき事項にもあがっています。検証する仕組みが早期に構築され、報告書を作成されることが期待されます。
- 目標であったアドミッション・ポリシーの明文化を実現されました。しかしながら、進捗評価が「B」です。「B」の理由が不明です。
- 小項目5.0.2については、現状における学生募集方法、入学者選抜方法はどのように行っており、それが適正であるかどうか、透明性を確保する措置はどのように行っており、それが適正であるかどうか、などについて聞いていますと考えられます。この視点で記述を工夫してください。
- 小項目5.0.3については要素や指標データなどを参考にされ、もう少し現状説明が欲しいところです。

昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・小項目5.0.3については、特定6項目データを使用してもう少し説明を加えてください。志願者総数の動向などについて説明をお願いしたいと思います。
- ・検証は、受け入れ方針に沿った学生を確保できたかどうか、という検証でもあります。なかなか測定は困難で短期で出来るものでもありませんが、測定方法を確立され、長期的、計画的な検証を期待します。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

## ○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」  
（略）

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
（略）

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」  
（略）

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

## IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2009年度設定目標1（アドミッション・ポリシーの明文化）における進捗評価「B」について、個別入試制度における期待する入学者像の明示を待って改めて、全体のポリシーも再検証されるべきであるので、現段階では「B」の評価に留めている。

- ★小項目5.0.4における現状説明について、従来も入試検討委員会（研究科）で学生募集および入学者選抜の方法については検証を重ね、その結果を制度に反映してきた。しかしながら、客観的に妥当性を担保した検証を、定期的実施していく仕組みづくりには未だ至っていない。